



レバノン、イスラエル、シリア、イラン：イスラエルがゴラン高原で

ヒズブッラー要員及びイラン革命防衛隊隊員を殺害（2）

2015年1月18日、イスラエル軍の爆撃により幹部を含むヒズブッラー要員6名が死亡したとされた事件は、その後、イラン革命防衛隊幹部を含む6人も同時に死亡していたと報道されている。レバノン側の報道では、ゴラン高原の境界線のシリア側約400メートル地点を車3台が移動中にイスラエル軍の攻撃を受けた。イラン側は、革命防衛隊の将軍を含む6人の死亡を確認している。また当初、イスラエル軍ヘリコプターによる攻撃とされたが、19日、ゴラン高原に展開する国連軍（UNDOF）は、イスラエル軍のヘリを見ておらず、イスラエル軍の無人偵察機が飛行していたと発表している。イスラエル軍は事件について、公式な発表をしていない。またイスラエル側のメディアは、同事件に関する直接的な報道をしておらず、外国メディアの報道を引用している。

評価

現在の時点では不明な点が多い事件である。イスラエル軍がゴラン高原で境界線のシリア側を攻撃したのは今回が初めてではない。ただ過去のパターンでは、シリア側から越境攻撃があったことなど具体的理由を明らかにして、報復攻撃の方法も発表している。レバノン側の報道が事実であれば、今回イスラエル軍は休戦ライン付近のシリア側にいたヒズブッラーと革命防衛隊部隊を攻撃し、その後沈黙していることになる。これまでイスラエル軍が、シリア領内を攻撃しても沈黙してきたパターンは、より内陸部のダマスカス近郊あるいはシリア・レバノン国境付近を空爆した場合である。攻撃対象は、ヒズブッラーに移送されるイランの武器であったと推定されている。

イスラエル軍が、シリア紛争に積極的に関与する可能性は薄い。イスラエルは、イスラーム過激派がシリアを支配するよりアサド政権が存続するほうを歓迎するだろう。従って、イスラエル側から見れば、「イスラーム国」や「ヌスラ戦線」と戦うヒズブッラーやイラン革命防衛隊がたとえゴラン高原の休戦ライン付近で活動していたとしても彼らを攻撃する理由はない。ただイスラエル軍が、イラン革命防衛隊幹部が南レバノン地区のヒズブッラー幹部と休戦ライン付近で、イスラエルに対する攻撃に関係する動きをしていたと判断したのであれば、今回のような攻撃を実施するかもしれない。

イスラエル軍は、ヒズブッラーの報復を警戒して迎撃ミサイル「アイアン・ドーム」システムを北部に配置したと報道されている。北部の部隊は警戒レベルを上げたと報道されているが、部隊の増員はしていないようだ。（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.mei.j.or.jp/>